

2025年2月25日

各 位

会 社 名 株式会社オリエントタルコンサルタンツホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 野 崎 秀 則  
(東証スタンダード市場・コード番号2498)  
問合せ先 取締役統括本部長 橋 義 規  
TEL 03-6311-6641

## **株式会社オリエントタルコンサルタンツ スマートアイランド EXPO 2024 に出展しました**

当社グループの基幹会社である株式会社オリエントタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）は、2025年2月13日(木)東京ミッドタウン八重洲で開催された「スマートアイランド EXPO 2024」（主催：国土交通省国土政策局離島振興課 / スマートアイランド推進事務局）に出展しました。

「スマートアイランド」とは、離島地域において、官・民・学などが連携し、新しい技術や知見を導入することで、離島地域が抱える様々な課題の解決に繋げ、離島の暮らしを改善するとともに、離島の産業が活性化する未来を目指すものです。

今回の「スマートアイランド EXPO2024」では、スマートアイランドの取組推進に役立つトークセッション、技術シーズを有する企業によるブース出展、リアルでのマッチング交流会等が行われました。建設関連業界で唯一出展した同社は、「スマート防災からスマートアイランドへの展開（3D アイランドマップ×防災による DX の推進）」、「新たな吸収源対策としてのブルーカーボン（海洋生態系に取り込まれる炭素）の活用」等に関する技術 PR を行いました。

今後は、各離島地域が抱える課題の解決を図るために、同社が保有する新技術等を導入し、離島を有する地方公共団体と共同で実証調査等のスマートアイランドの取組を広く推進して参ります。



スマートアイランド EXPO 2024 の様子

以上

＜本資料に関するお問い合わせ先＞  
株式会社オリエントタルコンサルタンツ  
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011  
URL : <https://www.oriconsul.com/>  
統括本部 伊藤・丸山・門司

# スマート防災からスマートアイランドへ ～3Dアイランドマップ×防災によるDXの推進～

## ○ 3Dアイランドマップを活用した防災の全体像

3Dアイランドマップにより災害の「自分事化」を促し、強靱化を推進

【1】事前防災	【2】発災時	【3】復旧・復興
<b>■デジタルツインによる解析・予測</b> <b>■3Dハザードマップ</b> ・動くハザードマップ(3Dアイランドマップ+時間軸) (内水・外水・土石流・高潮・津波・火災延焼)	<b>■災害情報検知</b> ・ワンコイン浸水センサやAI付簡易カメラによる水害情報のリアルタイム検知	<b>■早期復旧対応</b> ・排水ポンプ車、復旧用資機材搬入等のルート選定
<b>■デジタル防災教育ツール</b> ・動くハザードマップなど「自分事化」に対する小学校や地域など防災教育支援	<b>■災害情報発信</b> ・スマートフォン等の通知機能の活用による避難の迅速化	<b>■被災水位調査支援ツール</b> ・3Dアイランドマップ+ワンコイン浸水センサの活用による浸水被害の罹災証明書発行
<b>■避難計画・訓練</b> ・マイ・タイムラインの活用 ・デジタル防災訓練システム	<b>■安否確認、避難所運営・管理</b> ・避難所運営の業務支援システム ・防災備蓄における支援システム	<b>■事前復興計画の立案</b> ・事前復興計画に対する合意形成
<b>■防災計画</b> ・防災指針、立地適正化計画の可視化		※ および下線は令和6年度以降に実施予定



## ○ DXの推進(スマート防災からスマートアイランドの実現)



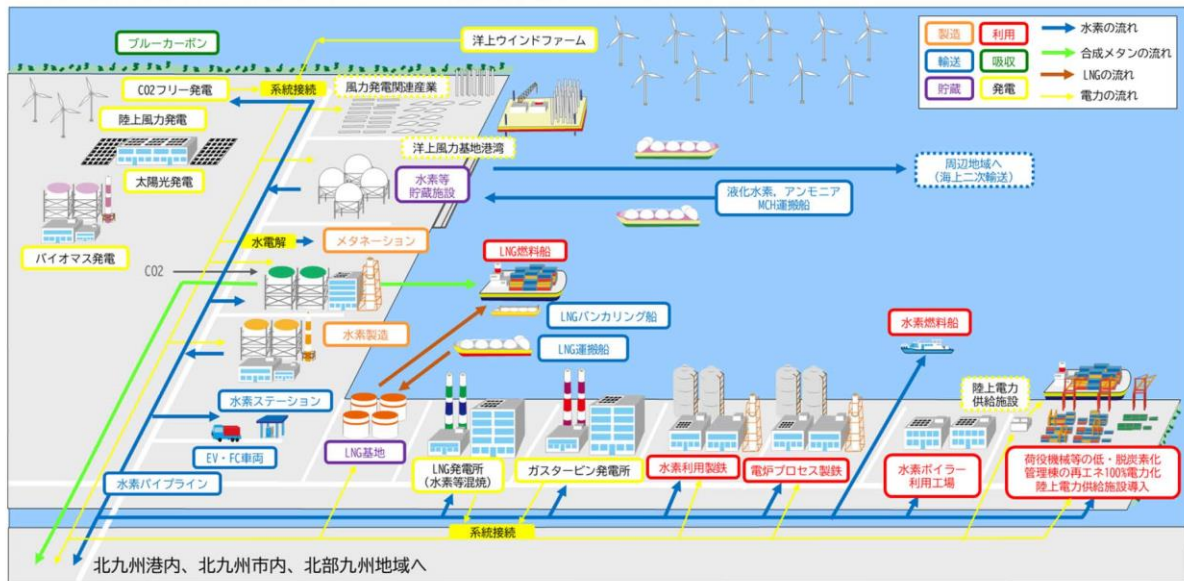
# 港湾の脱炭素化に向けた事業化支援

## ～カーボンニュートラルポート (CNP) 形成の推進～

### ～新たな吸収源対策としてのブルーカーボンの活用～

#### ○ 「港湾脱炭素化推進計画」の作成・事業化支援

「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素・アンモニア等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート(CNP)の形成を推進しています。港湾管理者による「港湾脱炭素化推進計画」の作成を支援するとともに、港湾脱炭素化促進事業(荷役機械等の低・脱炭素化、太陽光発電や陸上電力供給施設の導入等)の事業化に向けた支援を行っています。



北九州港のCNP形成に向けたイメージ図

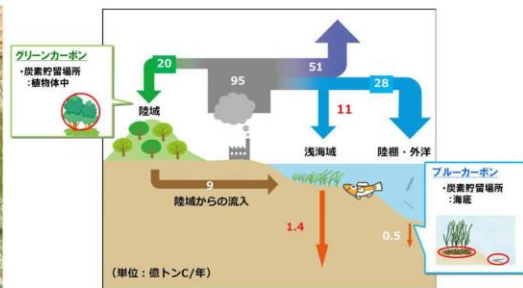
出典:北九州市

#### ○ ブルーカーボンの効果検証・まちづくり支援

海洋生態系に取り込まれる炭素のことを「ブルーカーボン」と命名されており、新たな吸収源対策として期待されています。藻場・干潟の造成材料としてのブルーカーボンの効果検証(実証試験、データ解析)、ブルーカーボンのクレジット化、ブルーカーボンを活用したまちづくりに向けた支援を行っています。



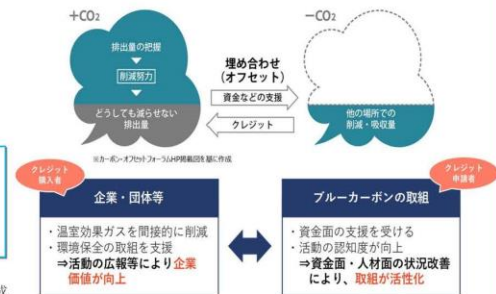
ブルーカーボン生態系 (海藻藻場)



出典: Kuwae and Crooks (2021)を参考に作成

グリーンカーボンとブルーカーボンの炭素循環図

出典: J-ブルークレジット®認証申請の手引きーブルーカーボンを活用した気候変動対策ー Ver.2.4 (令和6年3月、JBE (ジャパンブルー・エコミー技術研究組合))



カーボン・オフセットの概要